

「歴史に向きあう」新たな観光の可能性 ～歴史観光地としての会津美里町の魅力～

はじめに

1、歴史、地域認識をめぐる現状

- 「忠臣蔵」「勸進帳」を知らない高校生、大学生
 - ・「忠臣蔵」・・・高校生（主に進学校）の6割が知らないと回答
（福島県立会津高等学校2年生76名、会津若松市内の高校（図中A高）1～3年生98名、郡山市の高校（同B高）2年生76名、総計250名に実施（2007年））
 - ・「勸進帳」・・・大学生の7割が「ほとんど知らない」「全く知らない」と回答
（東洋大学一般教養科目「歴史と郷土文化」2009年度秋学期、2010年度春学期受講者125名、及び、1年次を主な対象とした選択専門教育科目「歴史と観光」2013年度春学期受講者92名、総計217名に実施）
- 松島、平泉の場所がわからない大学生
 - ・松尾芭蕉の『奥の細道』の順路
「出羽三山・白河・平泉・大垣・松島・酒田・金沢」（提示順）の並び替え
「白河→松島→平泉→出羽三山→酒田→金沢→大垣」を正答できた者
大学生92名中5名（前記2013年度受講者対象）
→最初の訪問地として白河を選べた者・・・3割程度
白河から大垣に入り平泉、出羽三山、松島、酒田、金沢とする経路「策定」も
- 会津の歴史的な位置づけに無頓着な会津高校生も
 - ・「長州ってどこですか?」、「松平容保」の読みは「まつだいらようほ?」
 - ・「大内宿に行ったこともないし知らない」とした者も2割に
（福島県立会津高等学校2年生76名に実施（2007年））
- 歴史好きは「おたく」?
 - ・会津高校地歴部生徒・・・「「おたく」扱いされるのがいや、自分は地歴部で活動していることは友達には言わない」とした女子生徒も
 - ・「歴女」ブーム 「歴女」＝「特異な志向性を有する趣味人」（いわゆる「おたく」）
といった扱いを受けているきらいも

「忠臣蔵」「勸進帳」＝国民的題材として人気を博してきた歴史物語・・・認知度低下
地域史素材、また歴史そのものの志向性への逆風も
→歴史観光の不振の大きな要因に 歴史観光を改めて活性化させる必要性

2、向羽黒山城をめぐる

○ 蘆名氏の存在感

蘆名氏：三浦一族の佐原盛連の系統が相模国三浦郡蘆名郷（神奈川県横須賀市）を所領として相続し、蘆名（葦名）を名乗ったことに始まる。

14世紀：蘆名直盛が初めて会津に下向したとされる。

康暦元年（1379）とされる通説

観応三年（1352）五月二十一日付真壁政基代薄景教軍忠状の「三浦若狭守」を直盛とする説も

至徳四年（1387）「三浦蘆名因幡前司入道性覚」・塔寺八幡宮に鰐口奉納（心清水八幡神社鰐口）

応永七年（1400）「蘆名次郎左衛門尉満盛」・稲村公方足利満貞に討伐

→三浦、蘆名を名乗る武士の動向散見、その系統が会津に下向し、在地に拠点

蘆名盛氏・16世紀半ばに活躍、蘆名氏中興の祖とも 蘆名氏勢力の最も強大に

永禄六年（1563）室町幕府諸役人付「大名衆」：織田・毛利・武田・北条らと並んで、奥州からは伊達氏と蘆名氏が掲出

・蘆名氏・米沢に本拠を置いていた伊達氏と並ぶ奥州屈指の戦国大名と認識

天文六年（1537）父盛舜から家督、17歳で当主に 伊達氏との協調関係構築

天文十九年（1550）6月 田村郡の領主田村隆顕との争いに勝利

→安積郡一帯を事実上掌握

→結城氏と提携、中通り方面から南進、常陸国から北進を図る佐竹氏勢力と衝突

永禄三年（1560）石川郡・白河郡の各地を戦場に、佐竹・田村の連合軍と戦う

○ 向羽黒山城の築城とその概要

盛氏・永禄四年（1561）向羽黒山城の築城着手、永禄十一年（1568）完成とされる

家督を盛興に譲った後、自らは向羽黒山城に

向羽黒山城・実城・中城・外構の三重の構成からなる山城で、さらに無数の曲輪群

→その堅固さから戦国の山城としては奥羽随一の名城とも

『厳館銘』：勝常寺（湯川村）の僧覚成・向羽黒山城の築城を記念、漢詩文

向羽黒山城の様子「騎羅墮壁不知幾重門垣復隻櫛齒經衝縦横若隔子布」

・堀や土塁が何重にも分からないくらいで、門や垣根も縦横それぞれに櫛の歯を並べたようになっていて、まるで格子の布のよう

町の様子「根小屋宿町向並薨二千余家」

・町は向かい合って軒を並べているのが 2,000 軒もある

向羽黒山城とその城下

向羽黒山城・非常に嚴重な作りの城、その周囲には町場が形成されるとともに、城の真下を流れる大川の舟運活用も

交通・物流の要地・南会津から関東へ、また高田・坂下へ、あるいは黒川（若松）・北方へと通じる物流・交通の要に立地

盛氏の動向と葦名氏の衰退 盛氏・向羽黒山城を拠点に、隠居後も精力的な活動

元龜二年（1571）からは、北条氏政と同盟し佐竹氏と連年交戦

天正六年（1578）ごろまでには田村郡は守山まで、石川郡はほぼ全域を掌握

盛氏・「止々齋」と号す。画僧・雪村を招くなど、文雅の風も

盛氏の治世で全盛を誇った蘆名氏

・天正八年（1580）盛氏が没すると、その勢威を維持することはできず

天正十七年（1589）摺上原の戦い 蘆名義広・伊達政宗に敗北、常陸へ

- 蘆名氏以後の向羽黒山城
 - 蘆名氏の退転 →会津の領主・伊達政宗、蒲生氏郷、上杉景勝へ
 - 各氏の向羽黒山城跡の利用想定 ・所々で織豊系城郭の築城技法による修築部分
 - 北曲輪地区・三曲輪地区・造成途中で放棄された曲輪や外柵形が確認
 - 二曲輪地区・三曲輪地区を画する横堀ラインの外側・未完成な状況に
 - 高度に軍事的な緊張関係の中で、高度な軍事施設（戦争用の城）として急いで
拡張、改修
 - 軍事的緊張関係が突然解消したために、そのまま放棄
 - =最終段階は慶長五年（1600）の徳川家康の会津侵攻に備えた可能性も

- 向羽黒山城跡の位置づけ
 - 向羽黒山城・蘆名氏段階：戦国大名の領域支配の拠点として機能
 - 蘆名氏以降：軍事施設（戦争用の城）として機能
 - 蘆名氏段階のものを利用しながら改修、拡張 位置づけの変化

現況の向羽黒山城跡・二曲輪地区を中心とした蘆名氏段階の遺構、その蘆名氏段階の遺構に改修・拡張された曲輪・虎口・外柵形（馬出）・土塁など
=16世紀以降の東北地方南部における山城の変遷をたどることができる稀有な城跡

3、観光をめぐる新たな状況と会津美里町の観光様態

(1) 観光をめぐる新たな状況

- 「持続可能な観光」(sustainable tourism) への志向性
 - マス＝ツーリズム・旧来の団体旅行を中心とした観光
 - ニューツーリズムへの展開 ・エコツーリズム ・グリーンツーリズム
 - ・着地型観光 ・「まち歩き」観光の盛業
 - 業者・地域が一過性の観光利益を得ることにとどまらず、地域、地域住民が観光利益を享受し、地域振興に反映
 - =サステイナブル＝ツーリズムへの発想の転換が求められている

- 観光政策の進展
 - ・「観光立国推進基本計画」（2012年3月閣議決定）
 - 「観光資源の活用による地域の特性を生かした魅力ある観光地域の形成」
 - 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化
 - 「我が国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用し、文化振興とともに観光振興・地域活性化に資する各地域の実情に即した総合的な取組を推進」
 - 文化観光の推進
 - 「文化観光とは、日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする観光である。観光立国の実現のためには、観光による交流を単に一回限りの異文化、風習との出会いにとどめることなく、より深い相互理解につなげていくことが重要」
 - ・「ニューツーリズム創出・流通促進事業」（2007年から実施）
 - <文化観光事例>
 - a、地元のガイドが同行し解説、講座実施 →対象に対する理解を深める
 - 例：「歴史ガイドと歩く～道南歴史三昧」「漁村に息づく信仰と暮らし～天草新キリシタン紀行」「松江ゴーストツアー」ほか

b、従来とは異なる資源の見せ方により、新たな魅力を提供

例：「「一步先の京都」を同志社大学が龍馬と雅楽でプロデュース！」ほか

c、生活文化（衣食住）やものづくりを体験する

例：「着物で楽しむ佐原の町並みと食めぐり」ほか

d、ゆかりの人のエピソードや文学などの活用で要素を結び、ストーリー性をもたせる 例：「地域の生活風土、文化等に触れあう旅『菅江真澄も歩いた街道・宿場、湯沢と横手を訪ねて』」ほか

○ 「地域ストーリー」の創出とその課題

- ・経済産業省・「地域ストーリー作り研究会」開催（2014年10月）、報告書提示（2015年2月）

「地域ストーリー」創造の目的

「個々の地域資源を組み合わせ、その関連性や文脈を興味深い物語に仕立て上げることにより、地域全体の魅力やブランド力を高め、地域を訪れる人々の関心や注目を集めること」（同研究会資料、下線は引用者）

- ・日本遺産・2015年4月、文化庁を主体として初めて指定

富山県高岡市「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心」

福井県小浜市、若狭町「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国（みけつくに）若狭と鯖街道～」

熊本県人吉市、錦町ほか「相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～ 日本でもっとも豊かな隠れ里 一人吉球磨～」 ほか

日本遺産・「我が国の文化・伝統を語るストーリー」を日本遺産として認定し、

「国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図る」＝地域における歴史素材をストーリー化して、観光者らの面前に提示し、それら

を認知させることで、地域おこしに活用しようとするもの

- ・「地域ストーリー」は果たして「仕立て上げ」られるものなのか

日本遺産・岐阜県岐阜市「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜」

「自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鶺鴒観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。」 →信長のルイス・フロイスらへの対応には戦略的意図があるわけで、それを単なる「おもてなし」とみることへの違和感も

→客観的事実に立脚した中で「地域ストーリー」が語られることの必要性

(2) 会津美里町の観光様態

○ 観光入込者の状況

- ・町全体の観光入込者数は、周辺市町村が、平成23年東日本大震災の風評被害等の影響を受けているのに対して、ほぼ一定の割合を堅持している（図5、図6）。
- ・会津若松市は、平成23年は、震災の影響で、鶴ヶ城修復工事があった平成22年以前の数値と比較して6割程度まで減少したが、平成25年は、大河ドラマ「八重の桜」の効果で前年比7割増加の大幅増となった。しかし、周辺町村には大河ドラマによる観光効果はほとんど見られなかったことがわかる（図6）。

- ・会津美里町と周辺市町村で観光入込者数の人口比度数を比べると、下郷町が極めて高く、会津美里町の約2.5倍の数値となっている。磐梯町は平成19年と平成26年を比べると約3倍となっているが、これは、平成21年の「道の駅ばんだい」開設の影響によるもので、当施設の近年の入場者数は、95万人を越えている（図7）。
 - ・会津美里町の観光入込者数人口比度数は、会津若松市や会津坂下町と比べて約5倍となっているほか、県外同規模市町村と比べても高いことがわかる（図7、図8）
- 観光施設別状況
- ・会津美里町内の主な観光施設の入場者割合推移をみると、伊佐須美神社が約8割を占めている（図9）。当社は、年間約140万人の入場者のうち、初詣で約18万人ほどが訪れるとされており、年間を通じて入場者があるとは思われない。また、現状では、他の施設への観光者の波及が見受けられない。
 - ・会津美里町と周辺町村の主な観光施設の入場者数推移をみると、ここ数年、ほぼ横ばいであることがわかるが、寺社などの入場者は平成20年代前半から比べると減少傾向であることがうかがえる（図10）。
- 観光ガイドの状況
- ・会津美里町主要観光施設のガイド利用者数とガイド実施件数推移をみると、利用者数は、年度別、施設別ともにばらつきが見られる。実施行事等によって、状況が左右されていることがうかがえる（図11、図12）。
 - ・一方で、ガイド実施件数は、増加傾向にあり、個人客を中心に、ガイド利用の割合が増えていることがうかがえる（図12）。ガイド利用者の居住地は、関東信越地方が多く、東北地方全体や西日本からの誘客が望まれる。
 - ・向羽黒山城のガイド利用は、毎年全体の2割前後で、他の施設と比べて高いものとはなっていない（図13）。一見するだけではわかりづらい当地の見学について、ガイドの利用がより多くなることで観光者の理解が深まることが望まれる。

4、史跡を生かした地域振興、観光振興の事例—岩手県—関市巖美町本寺地区をめぐる—

(1) 「一関本寺の農村景観」の歴史的経緯とその特徴

○ 地域の特徴

岩手県一関市巖美町本寺地区 …平泉中尊寺の経蔵別当領陸奥国骨寺村荘園の所在地域骨寺村荘園・中尊寺と郡地頭・葛西氏との堺相論をめぐる作成されたとされる、12世紀末の「骨寺村仏神絵図」、14世紀初めの「骨寺村在家絵図」の2通の荘園絵図残存
 →その間の田地や道筋の開発の経過の一端などを理解することができる
 →戦後、圃場整備等の耕地整理が全面的には行われなかったことから、田地や用水、社寺の配置など、中世の荘園景観を荘園絵図に即して理解し把握することができる

○ 世界遺産選定運動の進行と挫折

2003年：世界文化遺産登録運動→平泉文化を補完する「文化的景観」として候補地選定
 2005年：絵図等による現地比定の場所など9ヶ所が「骨寺村荘園遺跡」として国史跡指定
 2006年：「一関本寺の農村景観」：近江八幡に次ぐ全国2例目の重要文化的景観選定
 2008年7月：平泉の世界文化遺産登録見送りを受けた候補地の再編→構成資産から除外
 2011年6月：平泉の世界文化遺産選定 →骨寺村荘園等は除外
 2012年9月：世界文化遺産選定のための国内暫定リスト候補地に選定

(2) 「一関本寺の農村景観」をめぐる保全施策と地域の取り組み

○ 行政側<一関市役所農地林務課、骨寺荘園室>の取り組み

「骨寺村荘園景観保全農地整備事業」…岩手県主体の景観保全型農地整備事業の実施
平成20年度から24年度までの5カ年計画、総事業費6億円余り

・区画整理 直線的な畦畔を撤去して1枚の水田面積を広げ、農業機械での作業を容易に→中世より残されている曲がりくねった畦畔…対象外

・農道 農道を新設、拡幅…農業機械を水田に入りやすくする

→景観への配慮 幅員：2.5m、農作業ができる最低限の幅に

農道の線形：現況の曲がりくねった畦畔や水路の形に合わせる

現在の幅員が2.5m以上の農道：現況のまま保全

路面の舗装…現地の土と砕石ダストを混ぜたものを使用することで緑化

・水路の景観整備 小区画水田が残る区域…水路をコンクリートの形状から石積みなどで土水路として整備 区域により、土水路の両側を木でブロックする木柵設置

・農業用排水施設 水位調節が可能な排水口を設置、用水管理を容易に

→従来の土嚢での用水管理を水位調節が可能な排水調節器を設置、省力化

景観配慮…排水調節器は地表に突出させない 調節器の蓋には草をプリント

・暗渠排水 地下に排水管を設置、水田を乾きやすくし、農業機械での作業を容易に
水はけの悪い水田が多く、稲刈りなどの作業に支障

→悪条件改善のため、地中に管を設置して水田の水を排出、農業機械の使用容易に
地下水のコントロール…収穫量の増加も期待

景観配慮…管理孔など、通常は地表に突出する施設を地下埋設型に

整備事業と世界遺産登録の関連性…市側からは「特に関係はない」との見解

世界遺産と景観保全ブーム…事業開始のための予算策定の契機となったと思われる

○ 地域住民の取り組み

地元住民…旧来、市内他地区に対してコンプレックス、地区に誇るものが無い

「以前は、本寺地区出身であることは、市内他地区では、あまり口にしなかった」

→世界遺産登録選定の提示…「天から降ってきたような話」驚き

地区に誇るものが出来ると歓迎、登録がされた場合の地区の生活への憂慮も

→「本寺地区地域づくり推進協議会」の発足（H.16） 年間163回の会議開催

＝地区にとって世界遺産がどのような効果をもたらすのか、又地区にはどのような魅力が隠れているかなど住民が地区について見つめ直す契機に

世界遺産候補地除外…そもそも住民側から提案したものではなく行政側提起の話

→除外に「驚き」「憤り」「平静ではいられない気持ち」も

→世界遺産選定の動き…住民の地域観の見直し、村おこしの始動

現在…「世界遺産に選定されればそれもいいが、それにこだわるものではない」

本寺地区地域づくり推進協議会の活動

土水路の泥上げ作業や草刈り作業、区画の小さな田での共同作業

他地域からの参加者を交えた田植え、稲刈りの体験交流や、秋の収穫祭

米納め行事…当地収穫農産物を、時代衣装をまとい冬の雪の中を中尊寺まで納める

地区内外の人々との交流事業と地域おこし展開

平成26年度「都市景観大賞」（景観教育・普及啓発部門）…優秀賞受賞

(3) 「一関本寺の農村景観」をめぐる観光施策

○ 一関市策定の観光振興計画 (2013年)

・「骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充」

骨寺村荘園遺跡の魅力と価値

＝「日本の原風景ともいえる農村景観と本寺地区の日常の営み」

・骨寺村荘園交流館 (若神子亭) ・「骨寺村荘園遺跡の情報発信や来訪者と地域住民との交流促進」を目的に設置 (2011年7月)

・遺跡解説のための展示棟施設・若神子亭に併設して設置 (2013年)

→両施設の効果的な活用、地元ガイドやボランティアガイドの会との連携・調整

史跡ガイド機能の整備強化の取り組み

農家民泊実施や体験イベント開催、平泉と関連した伝統行事のPRなどの取り組み

→「都会等にはない地域の特色を活かしながら観光客の誘致」を企図

○ 地区の取り組み

・ガイドツアーの実施 (無料 (午前、午後1回ずつ)、有料) いわいの里ガイドの会
標準コース：約3km、約60分 ロング・コース：約4.3km、約90分

・他地域からの参加者も交えた体験交流行事の展開

・若神子亭での企画イベントの開催

・展示棟での映像資料や立体模型を用いたユニークな史跡解説 その他

7、「埋没」している歴史資源を生かす会津美里町の観光施策試案

(1) 東京都内大学生の会津の仏教文化、慧日寺への認識

○ 調査の概況

東洋大学国際地域学部国際観光学科の専門科目「歴史と観光」受講者を対象に実施。

有効回答数は61。当該科目の受講者は、当学科1年生が多くを占め、その他当学科2～4年生から、他学部学生まで受講し、高校時代に日本史を履修していなかった者までおり、日本史学習及び基礎知識の度合いは高くはない者もいるが、全般に歴史的事柄や、歴史観光について、関心の高い者は多い。

○ 調査の結果

<「城」のイメージ>

会津若松城 (天守閣) と向羽黒山城 (北曲輪の堀跡) の写真を提示し、「『城』というときのイメージはどちらか？」と問うと、全員が会津若松城 (天守閣) を選んだ。

<山城 (例：向羽黒山城) への来訪志向度>

『向羽黒山城』のような山城に、行ってみたいか？との問いには4割が「行ってみたい」としたものの、6割は「行ってみたいと思わない」と回答した (図14)。

「行ってみたい」とした者の主な理由には次のようなものが挙げられた (下線は引用者)。

・私たちの身近な城 (天守閣) は、中に入って直接触れたり出来るが、山城は決められた城という概念では無く、自然とも触れ合え、分からないことが多いため行きたいなと思いました。

・大昔に日本という国をつくっていた偉人たちが実際にいた場所であり、その地に自分が立てるといことはとても感慨深いことであると感じるから。このように山城が栄えていたときと同じ自然に囲まれた土地に行くのは自分がタイムスリップしているかのような気分になり、それは自分にとって癒しとなるから。

- ・(前略) 春日山城に行った際に山城ならではの全体の大きさなども体感できたり、敵を惑わさせるための死角などをつくっていたりしてとてもおもしろかった。だから体力の自信のある時は山城も訪れてみたいとは思っている。(春日山城来訪体験があつて興味、は他もあり)
- ・その時代の建物や建造土地など敵からどのように守るかなどに興味があるからです。
- ・自分は城が好きなので、天守閣はもちろん豪華で魅力的だと思うが、その一方で、山城にしかない構造や目的等も知りたいから。
- ・山や自然が好きだから。また、自分が想像する城とは全然違うので、どんなところなのか、どんなものなのかが気になるから。

<向羽黒山城の認知度>

「福島県会津地方には、幕末の戊辰戦争でもよく知られた会津若松城(鶴ヶ城、会津若松市)がありますが、その西方の会津美里町には、戦国時代に会津地方を中心に大きな勢力をふるった蘆名氏が造営した、東北地方でも最大規模の戦国期の山城・向羽黒山城があります。向羽黒山城について、あなたは知っていますか?」との問いに9割強の者が知らないと回答した(図15)。

<向羽黒山城への来訪志向度>

向羽黒山城の概要について添付資料を示しながら、「向羽黒山城は、添付のような景観をもつ戦国期の巨大な山城ですが、わからないことも多く、現在、発掘調査を進めながら、その整備が進められているところです。向羽黒山城に、あなたは行ってみたいと思いますか?」との問いには、6割強の者が「行ってみたい」と回答した(図16)。その理由について、項目選択複数回答で選ばせたところ、「戦国時代の山城に行ったことがないから」を選んだ者が4割弱、「山頂部からの景色が良さそうだから」に3割弱、「発掘調査の過程などを知ることが面白そうだから」に2割弱の回答があつた。

<会津美里町を中心とした地域への来訪志向度>

法用寺・中田観音・米沢堤・立木観音の写真添付資料について「会津美里町を中心に写した古寺や景観」として示しながら、こうした地域を、あなたは訪れてみたいと思いますか?」との問いには、8割弱の者が「訪れてみたい」と回答した(図18)。その理由について、項目選択複数回答で選ばせたところ、「景色がきれいな様子だから」に6割、「田舎の落ち着いた風景にいやされる感じがするから」に5割弱の回答があつた。

○ 調査のまとめ

戦国期山城について、多くの者にはその認識は皆無といってよく、6割は「行ってみたいと思わない」と回答している。一方で、「行ってみたい」とした者からは、「分からないことが多い」その構造への関心や「タイムスリップしているかのような気分」としての臨場感を楽しみたいとした声があつた。春日山城への来訪体験があることから、他の山城にも行ってみたいとの声もあり、来訪体験が他の場所への関心と呼んでいることもうかがえる。向羽黒山城については、ほとんどの者が「知らない」と回答したが、写真資料を提示すると、6割強の者は「行ってみたい」と回答し、発掘調査の過程などにも関心を持つ者がうかがえる。「知らないもの」への好奇心が旺盛な、こうした年代の学生らに、「とりあえず」の情報を提示することで、その来訪意欲は格段に高まることが予想される。同様に、会津美里町を中心とした地域についても、写真資料を提示することで、高い来訪意欲が見られることがわかる。「歴史離れ」が言われる

若者層においても、史跡や歴史的景観に対する志向性を持つ層は明確にあり、情報の提示を通じて、向羽黒山城をはじめ、当地の寺社、史跡をさらにアピールしていくことが必要であるかと思われる。

(2) 向羽黒山城跡、及び会津美里町全体の観光施策試案

① 向羽黒山城跡におけるガイド機能の充実

向羽黒山城跡のような山城は、近世城郭としての会津若松城（鶴ヶ城）や宿駅村落景観としての大内宿などと異なり、「見てすぐ分かる」ものではない。そのため、その概要についてあらかじめ認識する施設や、道々の見所を提示するガイドの役割を重視する必要がある。学生の声からも、関心を持っている学生は一定数いるものの、「見て分からない」ものを見に行くことに逡巡する声が多い。その一方、わからないからこそ行って学んでみたいという者もいる。事例として提示した骨寺村荘園遺跡には、ガイド施設「若王子亭」があり、そこには資料館が敷設され、常時ガイドが配置されているほか、学芸員も常駐し、地域イベントを主催・主管している。物産販売も行われ、当地の地物野菜なども直売している。こうした施設が当地のそばに、常設されていれば、来訪者の見学の一助になるとと思われる。

② 「城」をめぐる地域ストーリーガイドの構築設定

向羽黒山城は、会津黒川城に連なる会津若松城や、上杉氏が建設に着手した神指城との関連性は当然ながら深いものがある。また、向羽黒山城を蘆名盛氏がこの地に築城した意図は推測の域をこえるものではないものの、南会津から関東へつながる下野街道の要地として着眼したものと考えれば、室町期から戦国期にかけて、会津田島を拠点とした長沼氏との関係性にも注目する必要がある。同氏が拠点を置いた嶋山城（南会津町田島）との関連を見出すことができる。なお、戦国期の当地の領主、長沼盛秀は、北条氏とも書簡を交わしており、元来、小山氏、那須氏らと並ぶ「関東八屋形」のうち的一家で下野国に基盤を持っていた長沼氏が関東の勢力と関係を保持していたことも伺える。上杉氏は、徳川家康の会津侵攻に備えた向羽黒山城の改修・拡張に着手していることが推定されるが、上杉景勝の会津移封に伴って、直江兼統の実弟である大国実頼が嶋山城の城代として配置されていることも関東に連なる下野街道沿いを重視していることが伺える。加えて、蘆名氏が伊達氏の侵攻に備えて国境に構築した柏木城（北塩原村大塩）や、会津地方から目を転じて、天正十三年（1585）、蘆名氏が佐竹氏・畠山氏（二本松氏）らと連合し、軍勢約3万5000の兵で約7000の伊達政宗の軍勢と対峙した人取橋の戦いに関連付けながら、畠山氏（二本松氏）の居城である二本松城（二本松市）を、また、蘆名盛氏が提携した結城氏の居城である白川城（白河市）との関連を見出すこともできる。いずれの城も、蘆名氏に関係づけることができる城郭で、それらを結んで「城」をめぐる地域ストーリーを構築し、同時にそれらをめぐることで、蘆名氏を手がかりに、戦国期の地域の様相を読み取ることも可能となってくる。

③ 広域ガイドコースの設定

向羽黒山城跡を基点として、法用寺三重塔、「ころり観音」中田観音、さらには、会津坂下町の立木観音、喜多方市の熊野神社長床など、いわゆる「会津まほろば街道」の周遊性を活性化させていくことは、会津平野西部の山縁に造営されていった寺社をめぐるつつ、古代から中世にかけて進展した、当地の開発の状況を類推させることが可能

となる。また、新鶴地区に残る、近世期開削の米沢堤などのため池は、その歴史性ととも、その景観も四季を通じて誘客が可能となるものとも思われる。

また、もはや、当地において一種の「ゴールデンルート」化しているとも思われる、会津若松と下郷町大内宿を結ぶルート上において、向羽黒山城跡や、会津本郷焼体験、「隠れた好素材」とも捉えることができ、来訪者の満足度も高い左下観音を立寄地として設定し、氷玉峠になぞらえた氷玉トンネルを通りつつ下野街道を南下し、その歴史性を体感させることも可能となるものとも思われる。

④ 地域住民が主導する観光施策の実施

観光施策による町おこし、地域振興に成功している地域は、そのほとんどは、地域住民が主導して施策を実施している地域であるといえる。当施策の実施について、行政側がリードすることはもちろん必要だが、地域観光、及びそれに付随する地域活性化の力を握るのは地域に住む住民の皆さんの力によるものかと考えられる。

おわりに

<参考文献>

- ・『岩手県一関市埋蔵文化財調査報告書第5集 骨寺村荘園遺跡』、2004年。
- ・一関市商工労働部商業観光課「一関市観光振興計画」2013年。
- ・須賀忠芳「蘆名氏の登場」「南山と北方―長沼氏と新宮氏」「蘆名盛氏と向羽黒山城」「奥羽仕置と伊達政宗」『決定版 会津ふるさと百科』郷土出版社、2008年（項目執筆）。
- ・同 「福島県」「戦国の合戦6 摺上原の戦い」『地方の視座から読み解く日本人の歴史シリーズ1 戦国日本』郷土出版社、2009年（項目執筆）。
- ・同 「中世後期長沼氏の存在形態―陸奥南山の所領と交通上の位置―」筑波大学日本史談話会『日本史学集録』28号、2005年。
- ・同 「高等教育一般教養科目における多様な歴史観・地域観構築の試み～「学校歴史」から「地域歴史」へ～」東洋大学国際地域学部『観光学研究』13号、2014年。
- ・同 「文化的景観における観光施策展開の意義とその可能性―「一関本寺の農村景観」を題材に―」日本国際観光学会『日本国際観光学会論文集』22号、2015年。
- ・梶原圭介「会津美里町 向羽黒山城跡」柳原敏昭・飯村均編『中世会津の風景』高志書院、2007年。
- ・高橋充「向羽黒山城と『巖館銘』」小林清治『中世南奥の地域権力と社会』岩田書院、2001年。
- ・原田順子・十代田朗編著『観光の新しい潮流と地域』NHK出版、2011年。
- ・福島県大沼郡会津美里町教育委員会『史跡向羽黒山城跡整備計画書』2011年。
- ・吉田敏弘『絵図と景観が語る骨寺村の歴史～中世の風景が残る村とその魅力～』本の森、2008年。

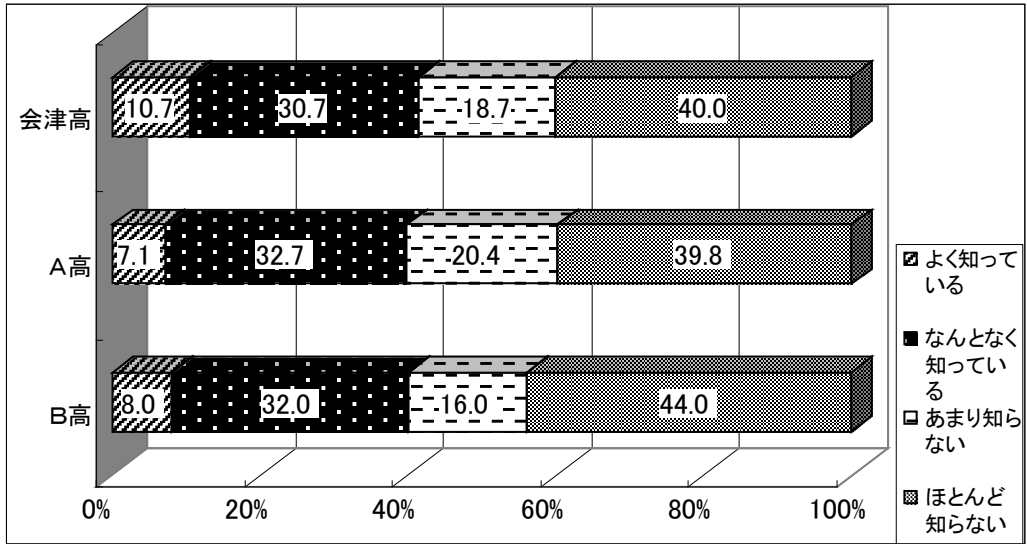


図 1 福島県内高校生の「忠臣蔵」に関する認知度 (N=250、対象者は別紙資料の通り)

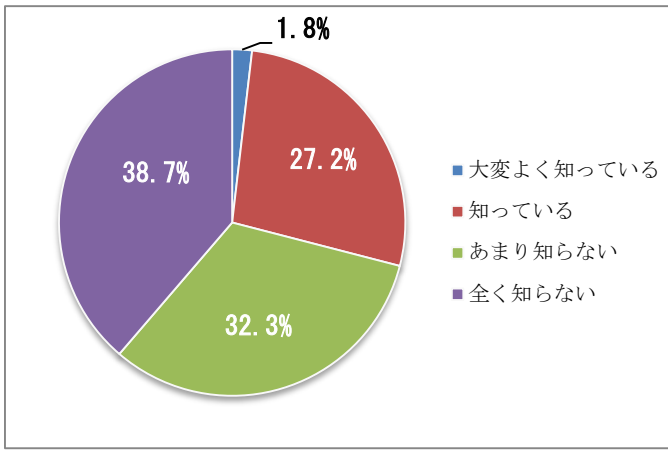


図 2 大学生の「勧進帳」認知度 (N=217、対象者同前)

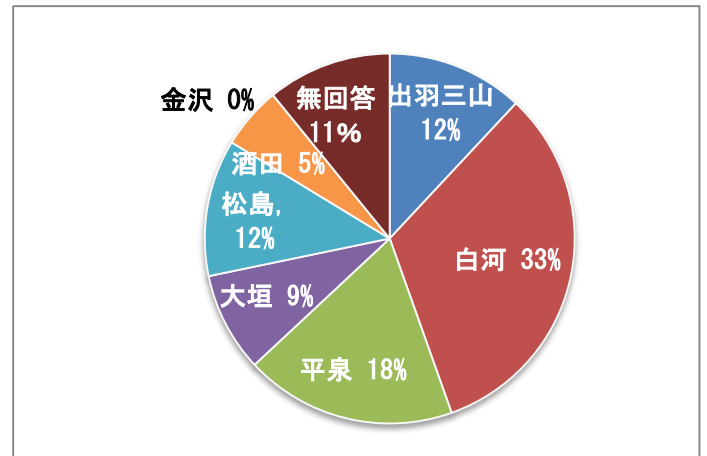


図 3 設定語句における『奥の細道』最初の訪問地認知度 (設定語句提示順、N=92、対象者同前)

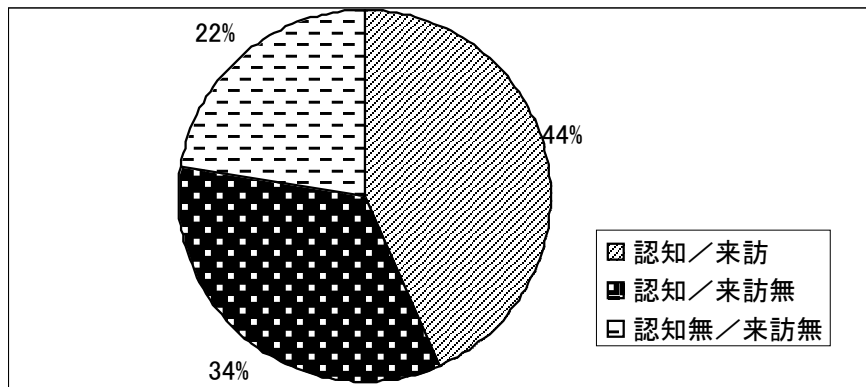


図 4 会津高校生徒の大内宿に関する認知度と来訪体験の相関図 (N=76、対象者同前)

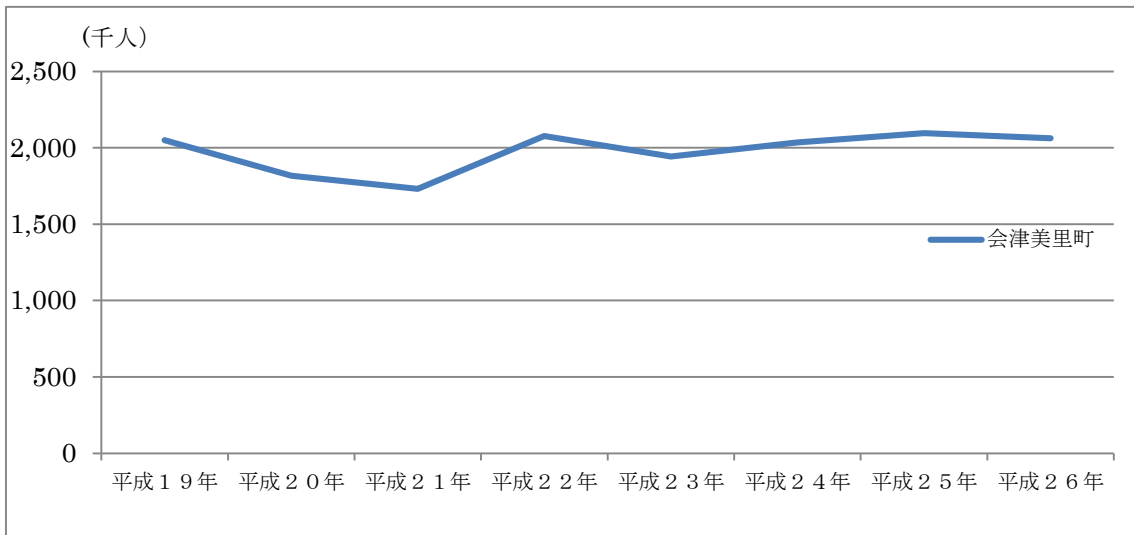


図5 会津美里町観光入込者数推移
(会津美里町提供資料より作成)

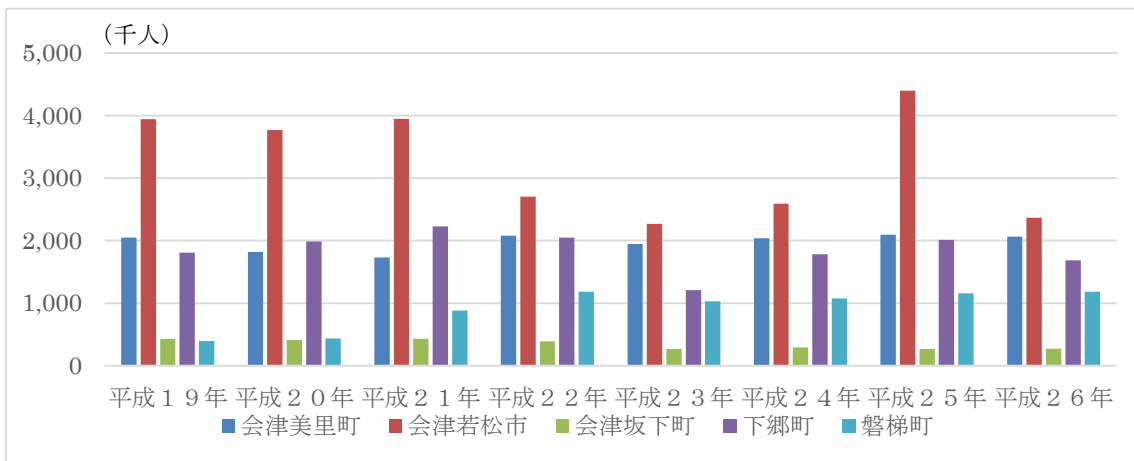


図6 会津美里町と周辺市町村の観光入込者数推移
(会津美里町提供資料、「福島県観光客入込状況」より作成)

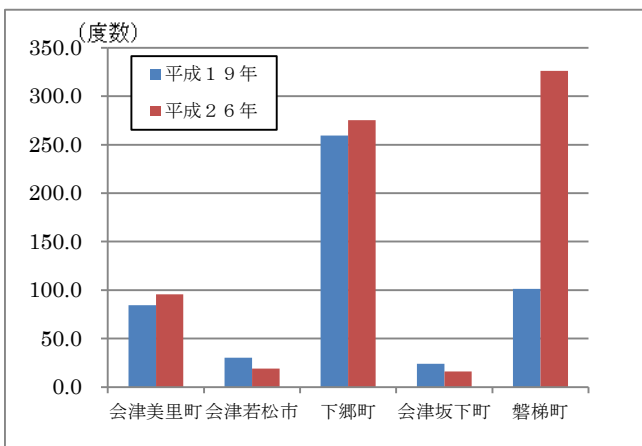


図7 会津美里町と周辺市町村の観光入込者数人口比度数
(会津美里町提供資料、「福島県観光客入込状況」、総務省人口動態データより作成)

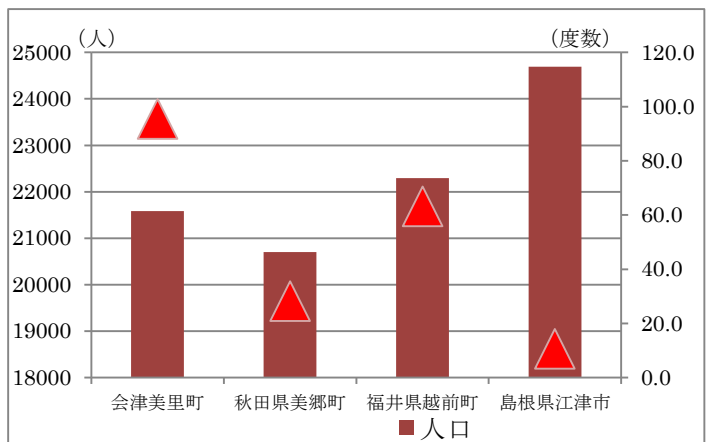


図8 会津美里町と県外同規模市町村の観光入込者数人口比度数
(会津美里町提供資料、「福島県観光客入込状況」、総務省人口動態データより作成)

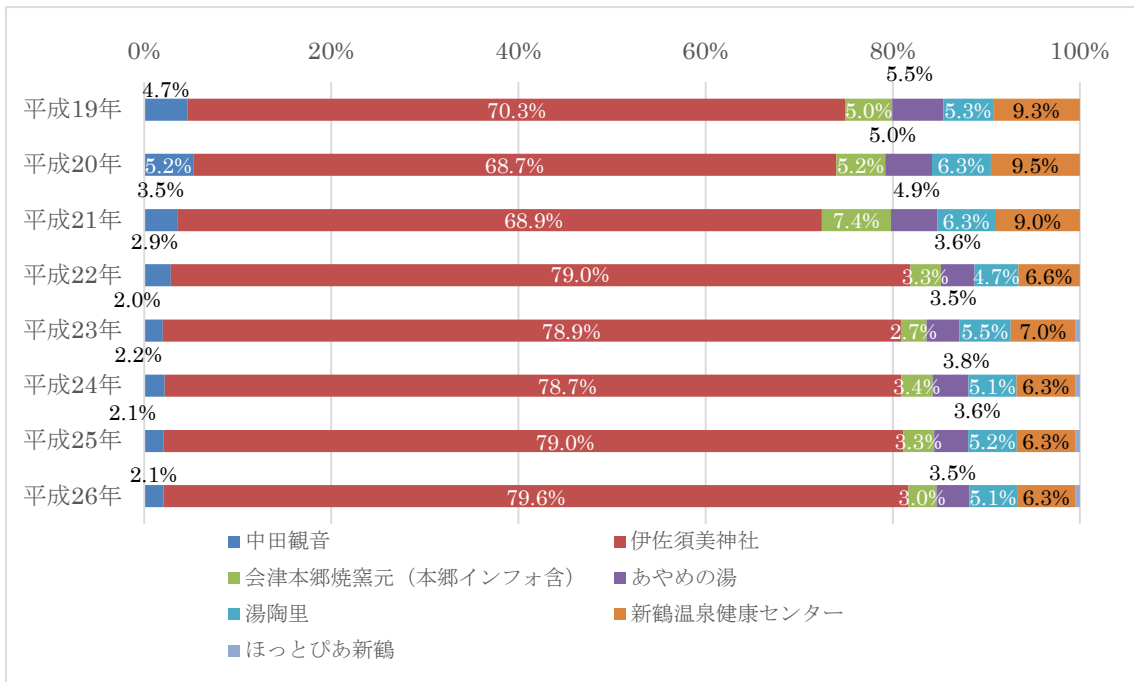


図9 会津美里町内主な観光施設の入場者割合推移
(会津美里町提供資料より作成)

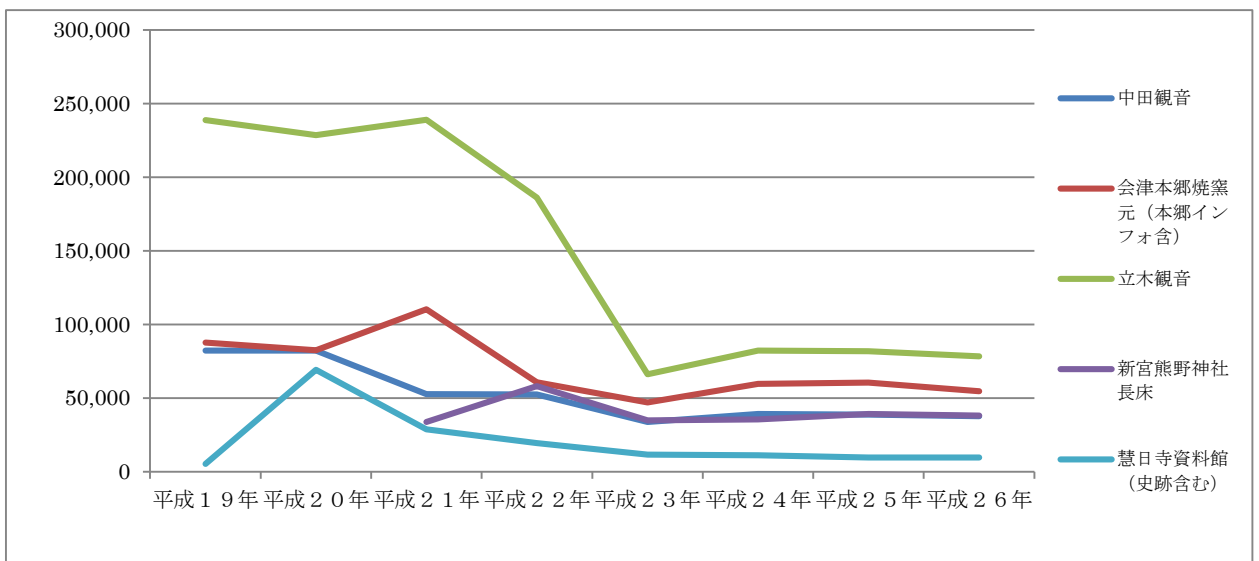


図10 会津美里町と周辺町村の主な観光施設の入場者数推移
(会津美里町提供資料、「福島県観光客入込状況」より作成)

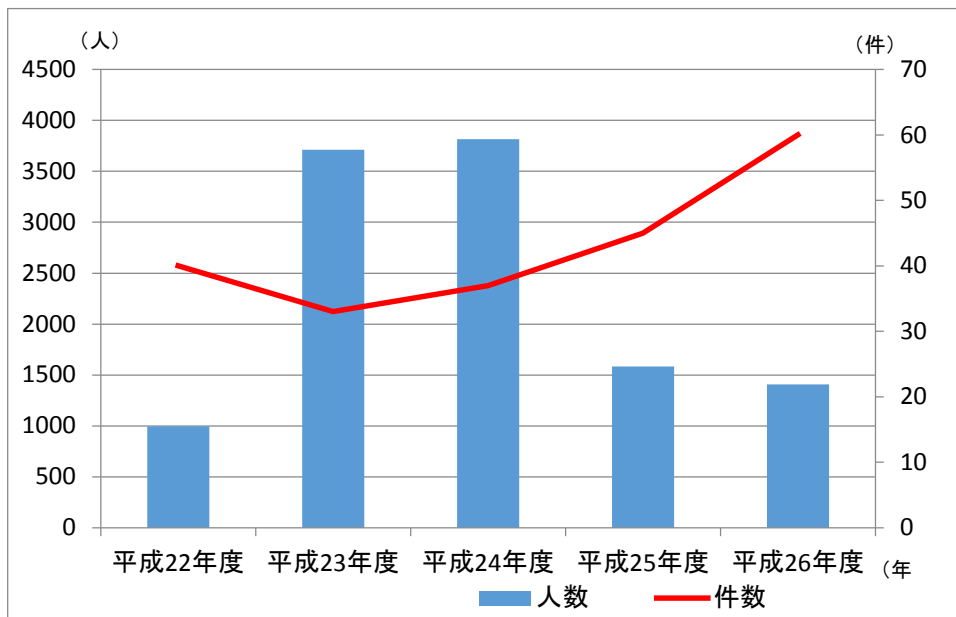


図 11 会津美里町主要観光施設のガイド利用者数とガイド実施件数推移
(会津美里町提供資料より作成)

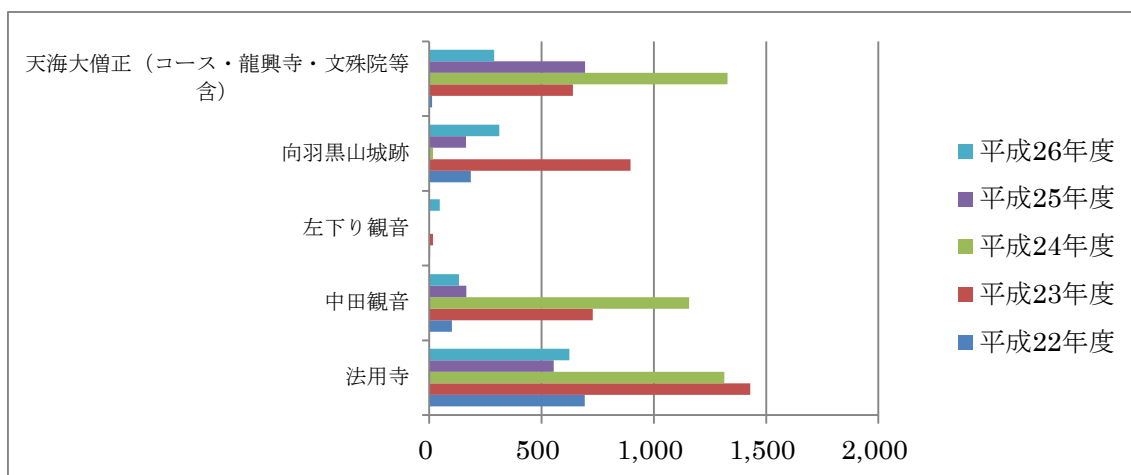


図 12 会津美里町主要観光施設のガイド利用者数推移
(会津美里町提供資料より作成)

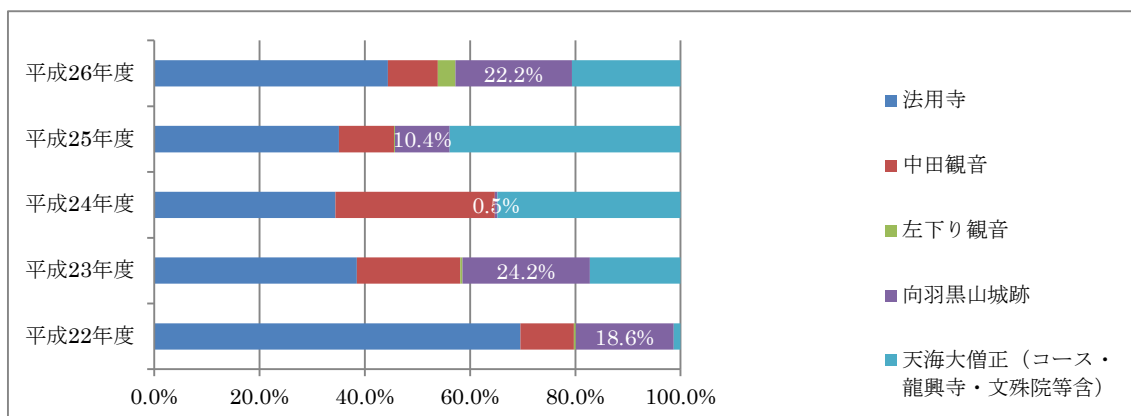


図 13 会津美里町主要観光施設のガイド実施割合推移
(会津美里町提供資料より作成)

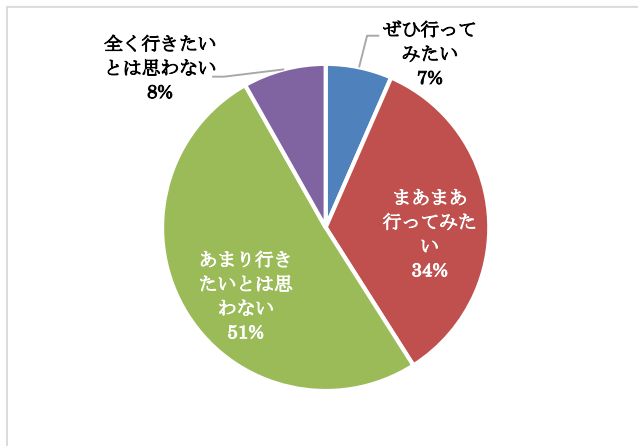


図 14 都内大学生の山城（例：向羽黒山城）への来訪志向度（N=61、対象者は別紙資料の通り）

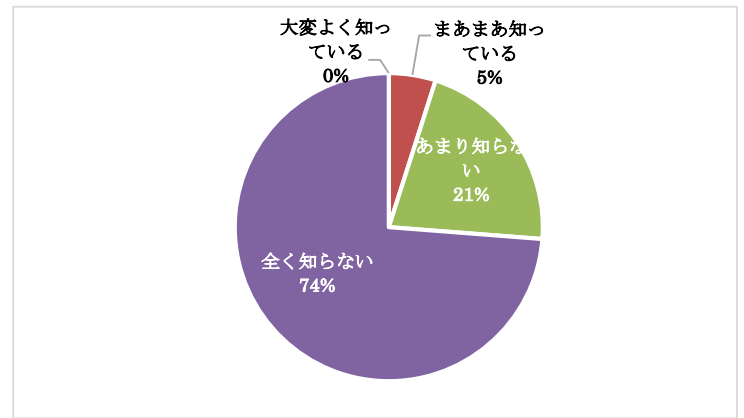


図 15 都内大学生の向羽黒山城の認知度（N=61、対象者同前）

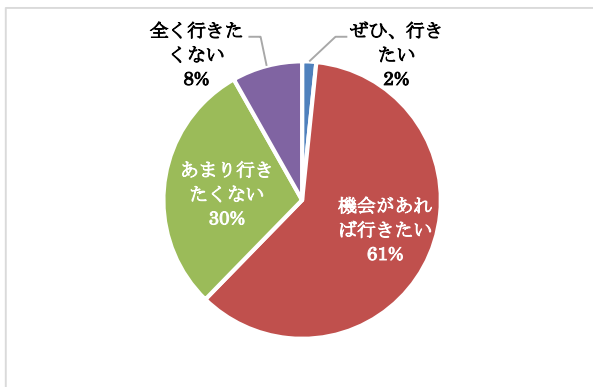


図 16 都内大学生の向羽黒山城への来訪志向度（添付説明資料あり、N=61、対象者同前）

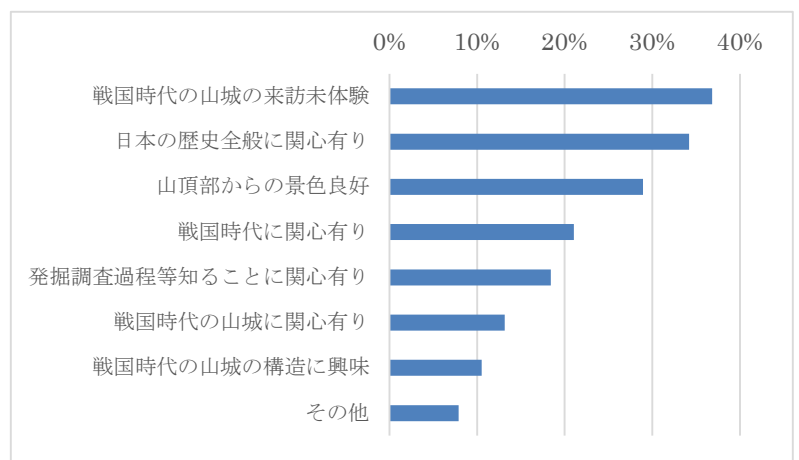


図 17 都内大学生の向羽黒山城への来訪志向の理由（N=38、複数回答、対象者同前）

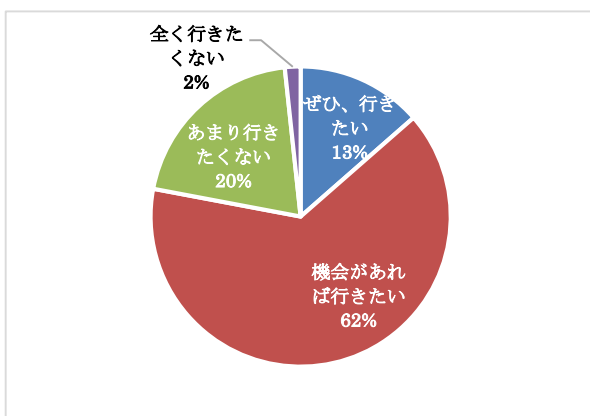


図 18 都内大学生の会津美里町を中心とした地域への来訪志向度（以下の写真資料提示（法用寺・中田観音・米沢堤・立木観音）、N=61、対象者同前）

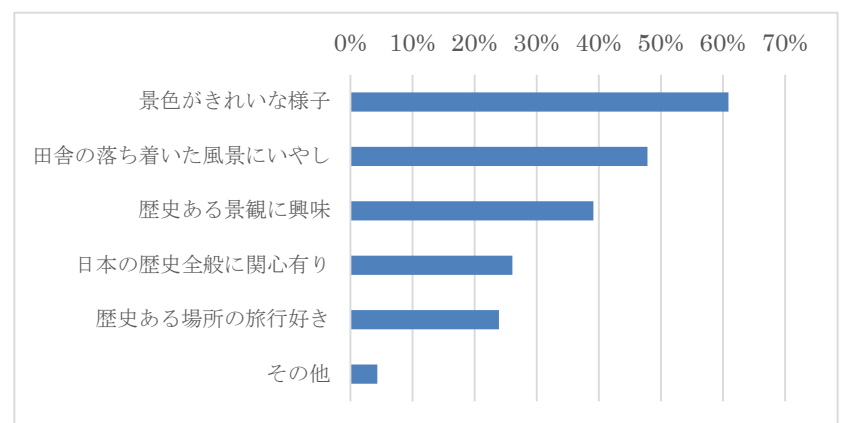
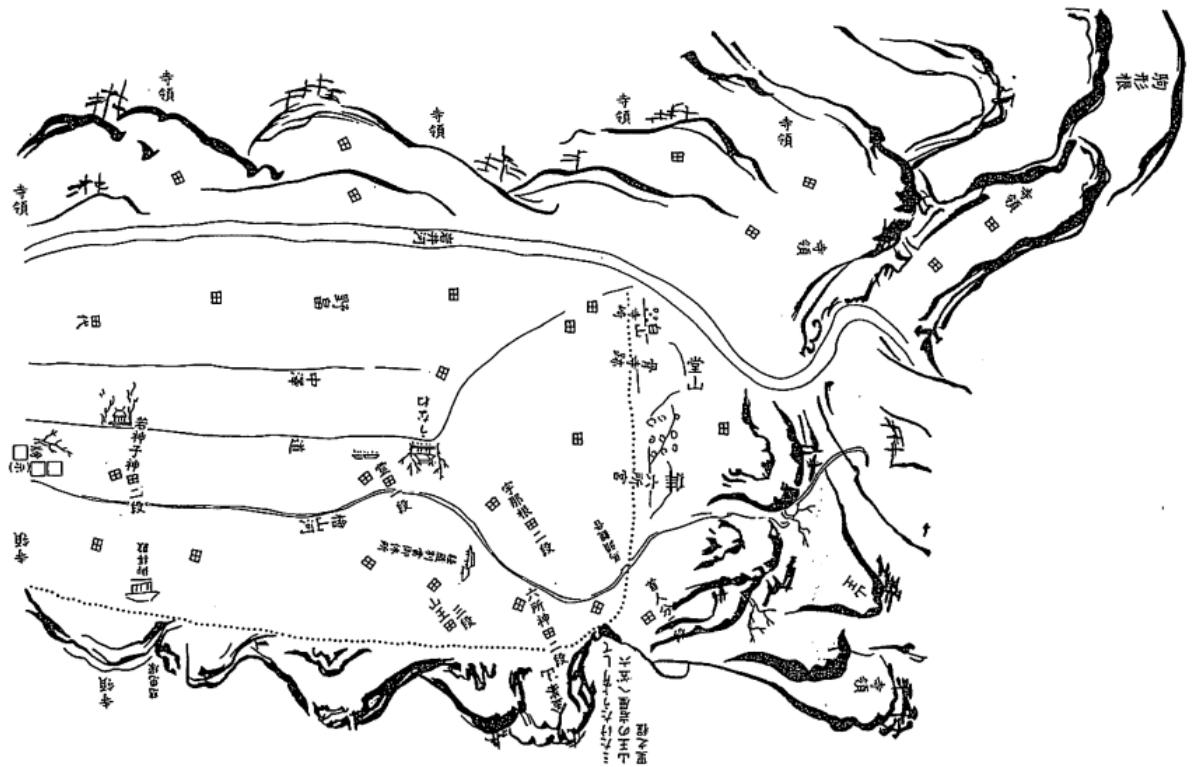
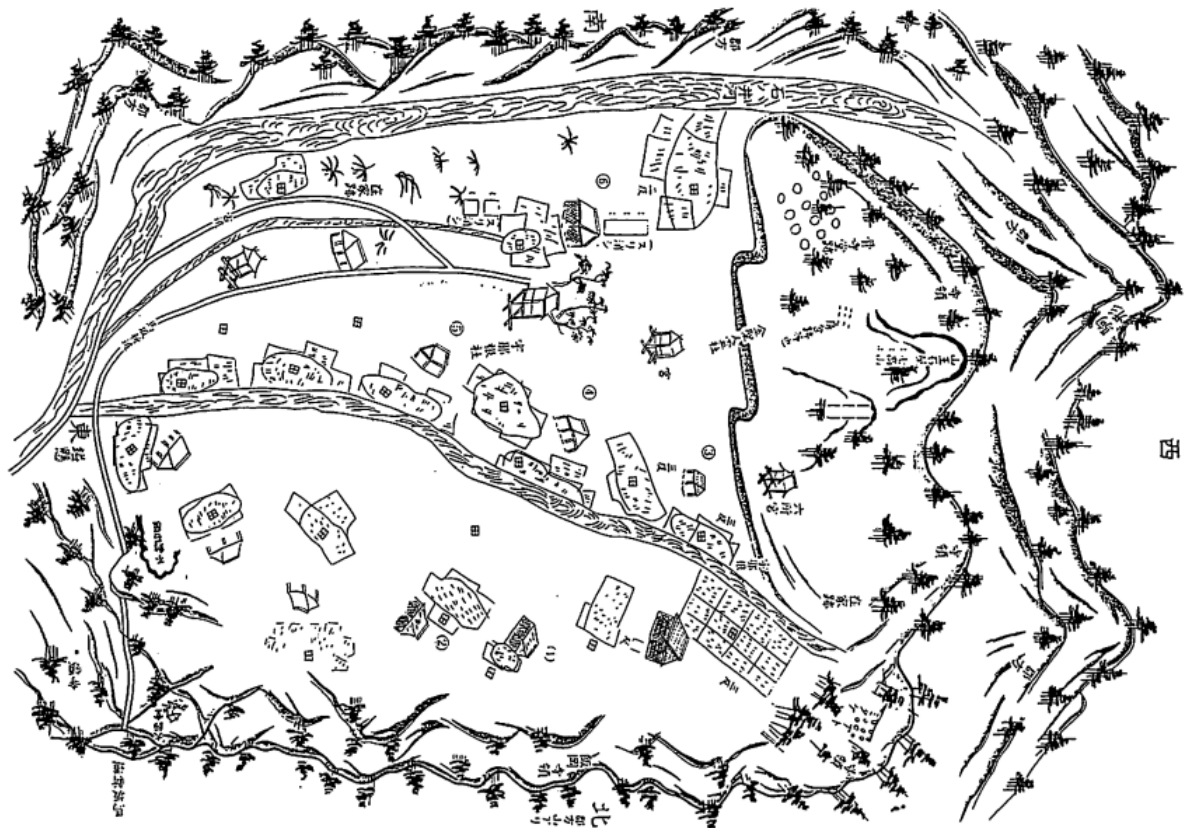


図 19 都内大学生の会津美里町を中心とした地域への来訪志向の理由（N=46、複数回答、対象者同前）

<関連資料>

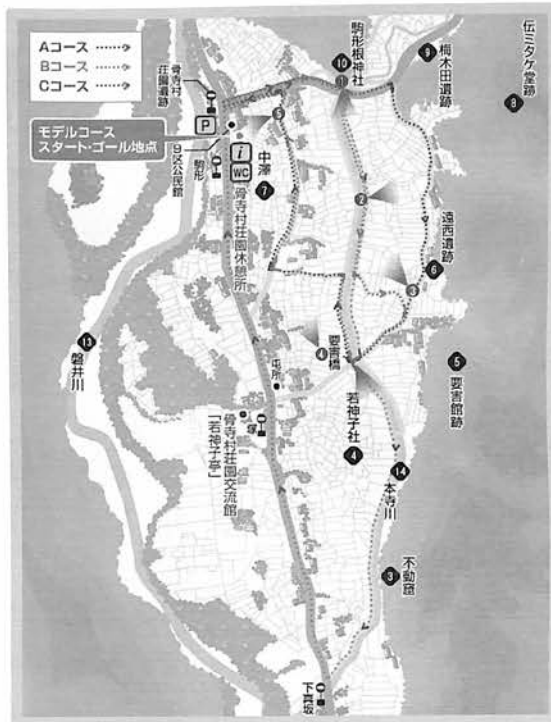


資料1 陸奥国骨寺村絵図（仏神絵図）トレース図
 (『岩手県一関市埋蔵文化財調査報告書第5集 骨寺村荘園遺跡』2004年 より)



資料2 陸奥国骨寺村絵図（在家絵図）トレース図
 (『岩手県一関市埋蔵文化財調査報告書第5集 骨寺村荘園遺跡』2004年 より)

モデルコースの紹介



ガイドについて

無料ガイドツアー

出発時間 → 【1】11:00～【2】14:00～
 所要時間 → 約1時間
 集合場所 → 骨寺村荘園休憩所
 電話0191-39-2930

有料ガイドツアー

ガイドの予約については、原則として前日午後3時
 までにお願いたします。
 予約先 いわいの里ガイドの会
 電話0191-21-8188
 ※ガイド料金については、予約の際にご確認願いま
 す。

凡例

- WC トイレ P 駐車場 〇 バス停
- I 情報(骨寺村荘園休憩所)・レンタサイクル
- 車での見学(国・県道のみ)
- 徒歩・自転車での見学
- ※本寺川の両側は危険防止のため自転車は降りてください
- 通行してもよいあぜ道
- 通行できないあぜ道

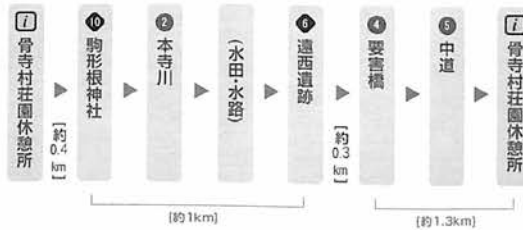
A.標準コース(距離約3km所要時間約60分)

荘園遺跡の主要部をコンパクトに見て回るコースです。本寺川沿いの道路から少し水田に入ると、中世荘園景観の雰囲気を楽しめます。



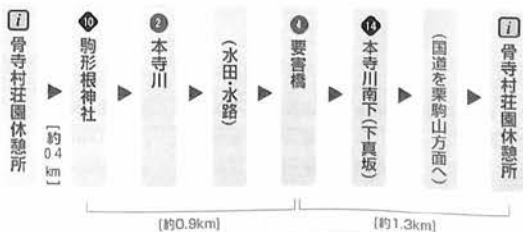
B.本寺川コース(距離約3km所要時間約60分)

絵図に描かれた本寺川に沿って荘園の主要部を歩きます。



C.ロング・コース(距離約4.3km所要時間約90分)

駒形根神社から本寺川沿いを歩き国道に出るコースです。



資料3 骨寺村荘園遺跡散策マップ・モデルコース

(骨寺村荘園遺跡 H.P (http://www.honeder.a.jp/map/model.html) より